

令和6年度 高鍋町立高鍋西中学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	「親愛」～誠実・友愛の精神、勤労と奉仕の精神、感動など「豊かな人間性」 「英知」～自ら学び、自ら考え、その学びを正しく生かし「課題を解決する力」 「鍛練」～健康・安全や目標に向かって自らを「鍛え磨く力」			
目指す学校像 目指す生徒像 目指す教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明るく、美しく、活気のある学校 ○ 学ぶ意欲を育て、知的好奇心を満足させる学校 ○ 一人一人が存在感のある学校 ○ 地域の信頼にこたえる学校</li> <li>○ 自他の良さを認め、友情を育み、個性を生かし協同して活動する生徒 ○ 知的好奇心にあふれ、自ら学び、考え、課題を適切に解決しようとする生徒 ○ 命と健康を大切にし、自ら進んで心や体を鍛え磨く生徒</li> <li>○ 生徒とともに学び続ける教師 ○ 生徒と夢を語り、確かな力を付ける教師 ○ 生徒の心をつかみ、気付き、動き、見届ける教師 ○ 生徒の手本となり、尊敬される教師</li> </ul>			
学校経営 ビジョン	『チーム西中』を合い言葉に、「フットワーク」「ネットワーク」「チームワーク」を徹底して学校・家庭・地域が一体となって「知・徳・体」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、「学びたい 学ばせたい 通いたい 通わせたい」学校づくりを推進する。 ★意識してほしいキーワード～【Chance Challenge Change】			

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価		学校運営協議会委員評価				
			指標別	総合	結果や状況の考察	改善策等			
たかなかべ学校エンパワーワー事業	子ども一人一人の学力を伸ばすための実践性のある学校づくり	○「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進	A	A	○「ひなたの学び」を校内研究に位置づけ、協働的な学びと個別最適な学びの実現に努める。	○教科に関係なくグループを組み教師同士で相互参観を実施してきた。	○今後も効果的なICTの活用や既習事項の定着と、テスト後の対策強化に積極的に取り組み学力の向上を目指したい。	○発表しやすい環境づくりや、個性別の発表方法もあって良いと思う。 ○「ひなた場」は、生徒の学びの意欲を高め、進路選択に役立つので重要な取組だと思う。あらゆる職業やキャリアに広げてほしい。	A
		○ICT活用の意図的・計画的な推進。			○ロイロノートやキュビナを活用した協働的な学びと個別最適な学びの推進。	○「授業が理解できている」90%「授業では進んで発表している」と答えていた生徒が43%以上であった。	○今後も地元の人材を活用したキャリア教育「ひなた場」を実施し、学ぶ意欲の向上につなげたい。	○参観日で授業を見ましたが、どの学級も落ち着いていました。またタブレットを効果的に活用しているのが分かりました。 ○教員同士での相互参観の取組は素晴らしい。レベルアップに効果あり。 ○ICTの取組は効果的だと感じる。引き続き細かなICT教育の推進を要望したい。	
		○学ぶ意欲を高めるキャリア教育の推進			○高校のオープンスクールや諸活動への積極的な参加 ○地域人材の積極的な活用	○学校はICTを効果的に活用していると感じている保護者が95%いる。	○今後も地域の人材を活用したキャリア教育「ひなた場」を実施し、学ぶ意欲の向上につなげたい。	○個々の能力を伸ばし、楽しい学校生活が終えることを望む。 ○町内には、自分の仕事を子ども達に伝えることで役に立ちたいと思う大人が大勢いる。地域から育てられている自分も感じてほしい。	
		○SCやSSW等の関係機関との連携強化			○生活アンケートの計画的な実施 ○不登校生徒の解消	○SCやSSWとの連携は充分にとれ、改善に向かったケースもあった。	○今後もSCやSSWを活用しつつ、様々な方面からのアプローチを試みながら、不登校の減少につなげたい。	○ボランティアの種類を示し、自分に合ったものを探してもらう。またどのようなものがあるのか紹介してほしい。	
	子どもに寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践	○道徳教育、人権教育の推進	B	B	○学年職員全員による道徳授業の実施	○道徳は学年職員全員で実施することができた。	○生徒会とタイアップしてボランティアの推進を図りたい。	○不登校生徒数の増加は全国的な課題だと思います。自宅での学習も可能ではありませんが、学校でしかできないことが多いと思います。不登校の解消に向けて、根気強く声かけ等を行ってもらいたいです。 ○PTA活動と連携していくとよい。石井十次について学びを更に深めたうえでどうか。 ○心身共に健全な子どもと、そうでない子どもにSSWの活用がとても重要であると感じている。また教職員の負担軽減のためにも増員を望む。 ○生徒一人一人が成長できるようなサポート体制の充実をお願いしたい。	B
		○生徒の自主・自立を基本にした生徒会活動の活性化			○リーダーシップ・メンバーシップによる生徒会活動の活性化 ○学校が楽しいと感じている生徒が80%以上である。	○清掃や学校行事等に積極的に取り組む生徒が82%である。	○生徒会とタイアップしてボランティアの推進を図りたい。		
		○スクールスポーツプランに基づいた継続的な実践と部活動との連携			○体力テストのスコア50以上の生徒が60%以上	○体力向上プランのもと、体育の授業や昼休みの体育館開放の実施等で体力の向上を図ってきた。	○個々の基礎体力を更に伸ばすため、生徒会とタイアップしながら組んでいく。	○危機管理能力向上の実践的体験会で各方面からのアドバイスをもらう。 ○自転車のヘルメット未着用の中高生が多くいる。 ○朝の見守りをしているが、自転車で登校している生徒は交通安全によく気をつけています。 ○スマホ利用での夜更かしで生活のリズムが狂っている子どもも増えている。犯罪に巻き込まれるリスクもあるので、保護者を含めた啓発、勉強会が必要なのではないか。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」は生徒と保護者の両方で生活習慣の改善が意識されていると思う。3点固定「起床時間、就寝時間、学習開始時間」をさらに推進してみてはどうだろうか。 ○子どもの意見を第一にすることは今風かもしれないが、そのことで親の思いが通じず、親が口出しをしなくなることが怖い。 ○自転車の一時不停止を目にすることがある。指導をお願いしたい。	
	地域が一つになつて高鍋町を育てる連携の実践	○全職員による給食指導のマナー育成と食育の推進	B	B	○給食の残食を1日平均2.0kg ○朝食抜きの生徒ゼロ	○「早寝・早起き・朝ごはん」を実践している生徒は70%、保護者が77%でほぼ同じ回答だった。	○規則正しい生活を送るよう保護者にも啓発を行う。	B	
		○安全教育の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成			○交通事故等の撲滅 ○関係機関を活用した安全教育の実施	○年3回、交通安全教室を実施している	○交通安全に関する常時指導を確立する。		
		○読書の時間や町・県の図書館活用事業を有効に活用する。			○1・2年生は1か月で2冊以上、3年生は1冊以上の読書をする。	○読書の習慣ができている生徒が38%であり、読書の習慣が身に付いていない。	○図書委員会と協力しながら読書の推進を進めます。	○新聞を読む週間から始める。 ○朝の読書の時間を作ったらどうか。 ○今はタブレットでも本が読めますが、やはり紙の媒体に触ることは大事だとおもいます。親も含めた啓発も必要。 ○ぜひ、柿原政一郎記念高鍋図書館と連携しましょう。 ○物事を専門別に調べる課題づくりが肝要である。	
読書活動の充実	○互いに尊重し合う集団づくりを行っていく。	○気配りや思いやりの心をもって人に接している生徒が80%以上である。	A	A	○「友人に優しく接している」と思っている生徒が94%であるが、今後も生徒の様子を注視していく。	○道徳教育の推進と外部講師を積極的に活用した人権教育に取り組みたい。	○様々なテキストを用いてあらゆる場面を想定した教育が大事。 ○朝の登校時、元気がなく、あいさつも少ない。 ○高鍋の子ども達は皆、仲良く思いやりがあると感じます。 ○他人の痛みが分かる子どもに育つてほしい。 ○人間関係を大切にする取組の成果が示されている。 ○参観では、生徒同士が尊重し合う姿が見られた。	A	
心豊かな生徒の育成	○部活動・社会体育クラブ加入率をさらに上げる。	○部活動（文化部を含む）・社会体育クラブ加入率が70%以上である。	B	B	○本年度の校外活動を含む部活動の加入率は65%であり、昨年度と同じ水準だった。	○部活動、校外活動未加入の生徒の基礎体力の増進を図る。	○体育大会を活用し、モチベーションの維持をはかる。 ○地域全体で合部活動が増えるといふと思う。 ○スポーツをしている生徒でしてない生徒の差が年々大きくなっている。 ○改善策に記載しているように努力していけばよい。部活動の加入は任意であり今後地域移行になる。体力向上は体育の授業で補完できるといい。 ○指導者を地域で募集し、満足のいく指導が望ましい。	B	
体力向上の推進	○避難訓練や防災の日の取組を計画的に行う。	○「学校は、安全な登下校や身を守る態度の育成に努めている」が80%以上である。	B	B	○生徒・保護者ともに「安全意識・危機管理」意識は90%以上だった。	○様々な場面を想定した避難訓練を実施する。	○危機感に意識が90%あることに驚きである。 ○警察や役場に協力を仰ぎ、実践的な訓練を行なうべき。 ○地区の方々との避難訓練も取り入れて頂きたい。 ○昨年行った避難所運営訓練は、素晴らしかった。災害時には若い力が必要になる。町の総合訓練に学校として参加してみてはどうか。 ○南海トラフ地震が30年の間で80%の確立で発生する。年に2回は避難訓練を行うことが望ましい。 ○日頃の心構えの必要性を感じる。	B	

【次年度の方向性についての校長所見】

校内研修において昨年から取り組んでいる効果的なICT活用による授業改善の取り組みを、本年度は学力向上につなげるために、相互参観を計画的に実施し、組織的に実践してきた。今後もこれまでの研究の成果を生かし、生徒のさらなる学力の向上を目指したい。また、生徒の主体的な活動においては、「リーダーシップ・メンバーシップ」の精神のもと、学校の諸活動で生徒が活躍する場をさらに設定していく。キャリア教育においては、地域コーディネーターやキャリア教育支援センター等との連携を深めると共に、地域の人材を生かした活動を推進をしていきたい。

